市政をふり返って '73

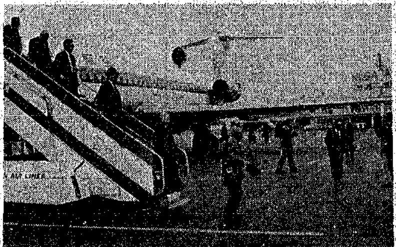
人口四十万都市達成をはじめ、局地間空路の開設、市民病院の開設、新潟・亀田両バイパスの開通など新潟市にとって明るい話題の多い年でした。

内政面でも、老人や乳児・妊産婦の医療費の無料化、生活道優先の道路舗装、中央公民館の完成など市民のための行政の前進をみました。以下一年間を振り返ってみましょう。

舞平処理場が完成　十七万人分のし尿を処理できる無公害施設として誕生

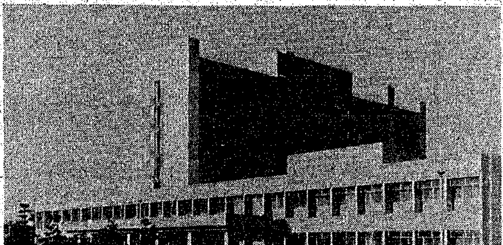
中央公民館が完成　鉄骨五階建ての立派な公民館が完成。多彩な記念行事が行なわれました。〈七宝焼き教室の風景〉

PCBに対処　ゴミ埋立て地に集められたテレビからPCB入りコンデンサーを抜き取る技術員



局地間空路開設　6月15日開設後乗客も6割近くあり開設初年度としては順調なスタートを切った。

市民体育祭　10月10日を中心に各種スポーツ行事が行なわれ1万人もの参加があった。〈市民マラソンのスタート〉



市民病院が開院　十月二十五日開院来、患者さんの評判は上々。

バイパス開通　新潟バイパスと亀田バイパスが交差する紫竹山インターチェンジ

'73年のあゆみ

▲40万都市達成▼

新潟市の人口が、四月二十三日日本海側では初めて四十万人を突破しました。全国では姫路市に次いで二十三番目。五十万都市への一歩をふみ出しました。

▲市民病院開院▼

二十四億円という巨額を投じて市民病院が十月二十五日開院しました。ベット数三百床、臓器別体制の十七診療科でスタートしました。

▲休日診療所スタート▼

内科系・小児科系の急患が日曜・祭日に出た場合に対応するために、新潟市医師会休日診療所が四月に西保健所でオープンしました。

▲各種医療費の無料化▼

市民の健康を守るため、七十歳以上の老人、六十五歳以上のひとり暮らし老人の医療費が無料になったのをはじめ、乳児、妊産婦の医療費も無料化されました。

▲PCBに対処▼

きれいな水の確保をめざし、水源のPCB検査が本格化される一方、廃棄家電製品のPCB使用部品回収にも着手されました。

▲40㍍ハシゴ車登場▼

日本海時代の拠点都市として発展する中で、高層ビルの建設が盛んなことから、ビル火災に備え、四十㍍のハシゴ消防車が登場。新潟市のビル火災に備えられました。

▲バイパス開通▼

新潟バイパスと亀田バイパスが十一月二十二日全線が開通しました。交通渋滞の緩和に大きな役割りを果す新潟市の大動脈として大きな期待が寄せられました。

▲阿賀野川浄水場の建設▼

緑化と公園づくりに力を入れている中で、年も河渡中央公園、関分記念公園、西海岸の公園化をはじめ、児童公園、チビッ子広場など公園づくりが推し進められました。

▲公園造り盛ん▼

ふえる一方の水需要に備え、中蒲原郡横越村に阿賀野川浄水場を建設、来年夏、一日三万五千トンの配水めざまし工事が急ピッチで進められました。

▲舞平処理場完成▼

新潟市、亀田町、黒埼町、横越村の四市町村がし尿処理に使用する舞平処理場が無公害施設として誕生しました。

▲中央公民館完成▼

主婦や青年の間で要望の強かった中央公民館が十一月完成。多彩な開館記念行事が催され、多くの市民が参加し、市民の社会教育活動のセンターとしてスタートしました。

▲学校の新築▼

過密地区の小学校区域を分け、新しい小学校建設を急ぐ中で、五十か校目の五十嵐小学校が完成したのをはじめ、石山中学校、大夫浜小学校が移転新築されました。

▲机・椅子入替え終わる▼

子供の体位向上で、小学校の机がからだに合わなくなったことから、全小学校を対象に机と椅子が全部入れ替えられました。

▲局地間空路開設▼

六月十五日、待ちに待った対岸と空で結ぶ「新潟のハバロフスク局地間航路」が開設されました。

この日、午前十時、ソ連アエロフロート機が新潟空港に到着。つづいて午前十一時四十五分に日本の一番機がハバロフスクに向け飛び立ちました。

▲国際交流▼

ソ連・ハバロフスク市、米国・ガルベストン市と姉妹都市交流も一層活発化しました。また中国の使節団や朝鮮の芸能団の来訪など国際都市にいがたの性格も強められました。

▲市民体育祭▼

十月十日のスポーツの日には、恒例の市民体育祭が開かれ、ママさん大運動会をはじめ市民参加のスポーツ行事など多くの行事が催され、一万人近い人が参加、スポーツ都市の名を盛り上げました。